



IV

資料編

data

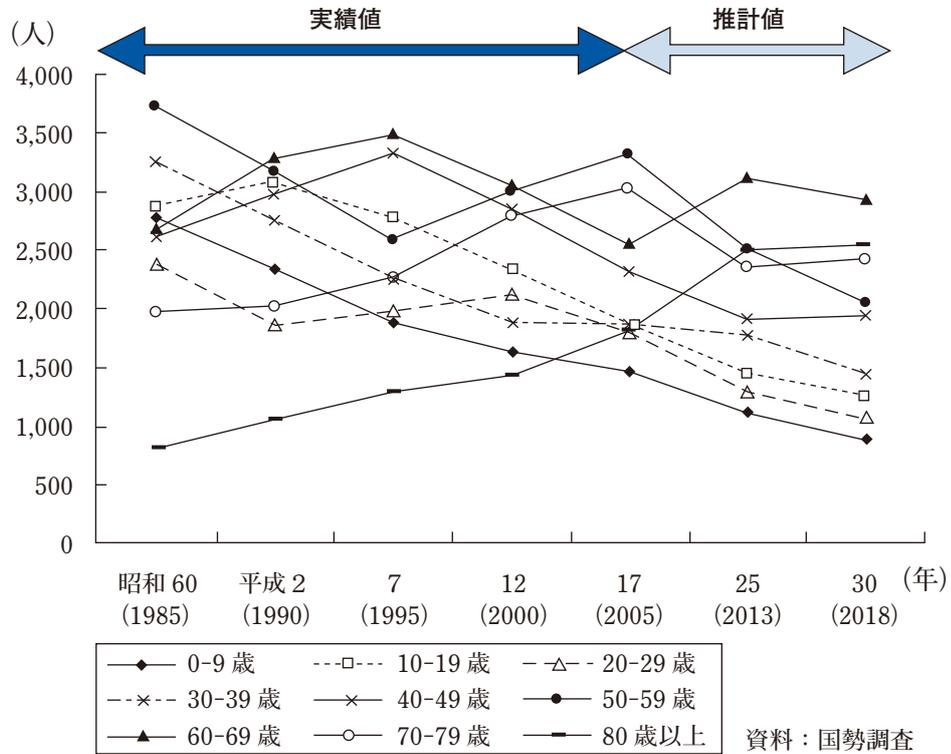


人口・世帯

●10歳階級別人口の推移と推計

10歳階級別の人口推移を見ると、0-9歳、10-19歳、20-29歳、30-39歳が減少を続けており、60-69歳はほぼ横ばい、80歳以上は増加を続けています。

10歳階級別人口の推移と推計



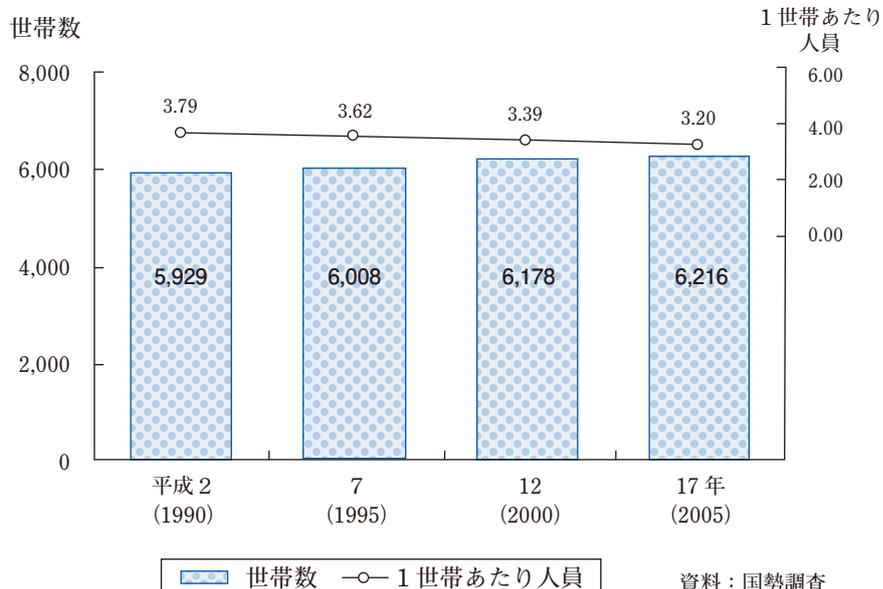
●世帯数

平成17年の世帯数は6,216世帯で、平成2年以降、増加が続いています。

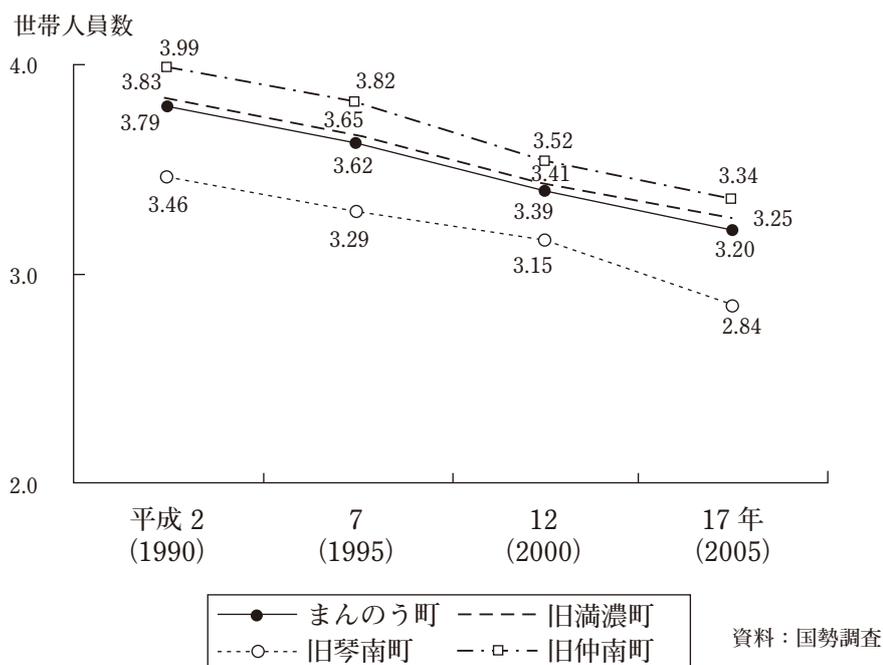
1世帯あたり人員数は3.20人で、平成2年の3.79人から減少の一途をたどっています。

旧町別に世帯人員数の推移を見ると、減少率は旧仲南町、旧琴南町、旧満濃町の順で高くなっています。

世帯数の推移



世帯人員数の推移



● 3 世代世帯数、単独世帯数、高齢者世帯数

平成17年の本町の3世代世帯数は1,527世帯（一般世帯数に占める割合24.6%）、単独世帯は1,026世帯（同16.5%）、高齢者単身世帯は653世帯（同10.5%）です。3世代世帯数の割合が県平均よりも2.5倍ほど高く、高齢者単身世帯数の割合は県平均、全国平均よりやや高くなっています。

旧3町を比較すると、旧琴南町は3世代世帯の割合が低く、単独世帯が高い都市型の傾向を示しており、旧仲南町と旧満濃町は3世代世帯が高く、単独世帯が低い農村型となっています。

3 世代世帯数、単独世帯数、高齢者世帯数（旧町別）

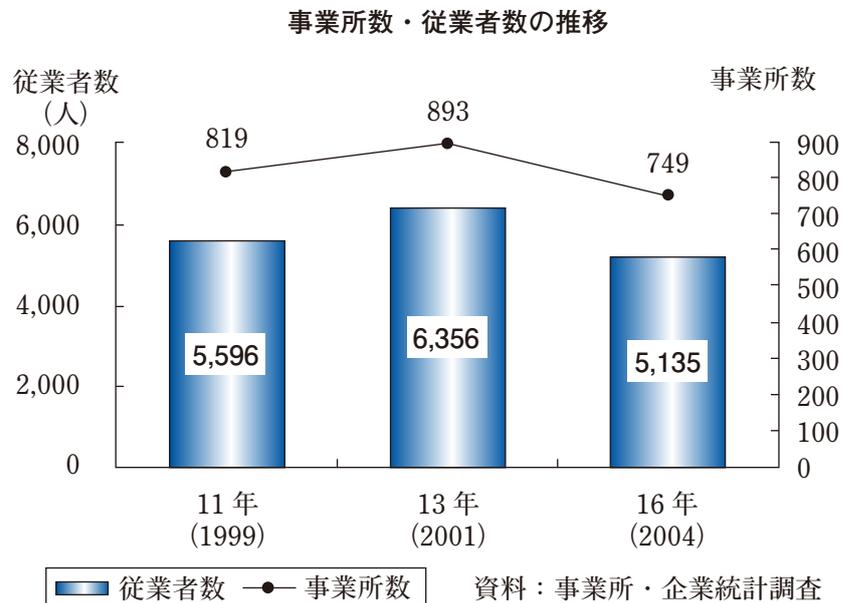
	一般世帯数	3 世代世帯	一般世帯数に占める割合	単 独世帯数	一般世帯数に占める割合	高齢単身世帯数	一般世帯数に占める割合
旧満濃町	3,836	910	23.7%	560	14.6%	337	8.8%
旧琴南町	1,008	211	20.9%	240	23.8%	163	16.2%
旧仲南町	1,359	406	29.9%	226	16.6%	153	11.3%
まんのう町	6,203	1,527	24.6%	1,026	16.5%	653	10.5%
香川県	375,634	39,834	10.6%	96,201	25.6%	33,246	8.9%
全国	49,062,530	4,517,832	9.2%	14,457,083	29.5%	3,891,769	7.9%

資料：平成17年国勢調査

産業・就業

●産業全体の動向

事業所・企業統計調査によると、平成16年の本町の事業所数は749、従業者数は5,135人です。平成11年から平成13年にかけて事業所数、従業者数ともに増加しましたが、平成16年には減少に転じています。



地域別従業者数・企業数の推移 (旧町別)

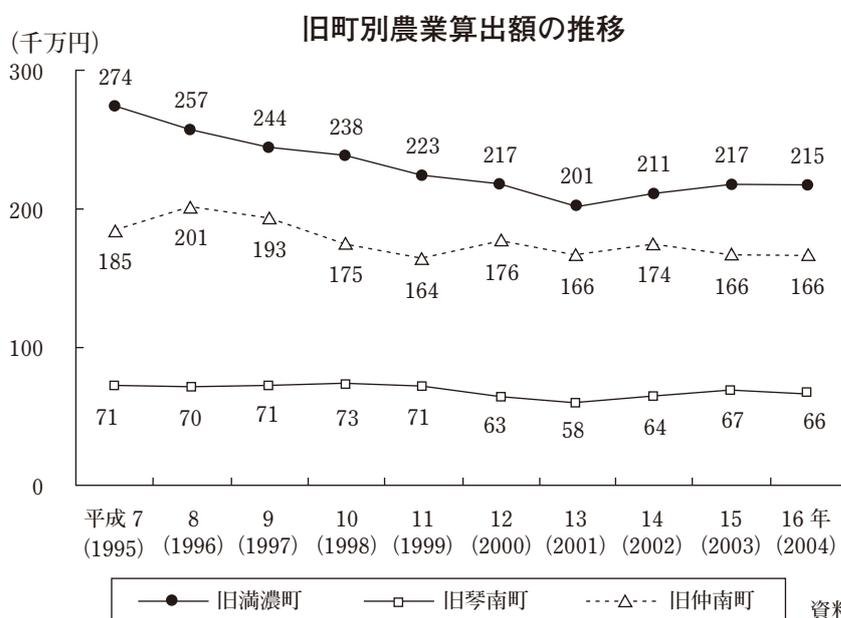
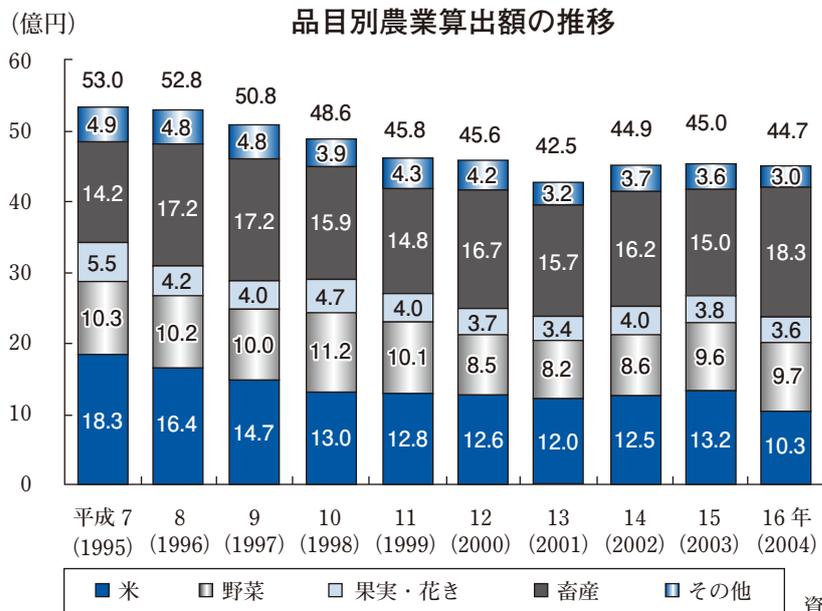
	合 計		旧満濃町		旧琴南町		旧仲南町	
	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数
平成11 (1999)	5,596	819	3,728	534	728	124	1,140	161
平成13 (2001)	6,356	893	4,112	571	810	139	1,434	183
平成16 (2004)	5,135	749	3,509	497	548	106	1,078	146

資料：事業所・企業統計調査

●個別分野の動向

(1) 農業

生産農業所得統計によると、平成16年の農業産出額の総額は約45億円で、平成7年以降、減少していましたが、平成13年以降、回復し、平成16年で再度減少しています。



平成16年の農業産出額の内訳は、米10.3億円のほか、野菜9.7億円、果実・花き3.6億円（果実1.2億円、花き2.4億円）、畜産18.3億円（鶏9.5億円、肉用牛4.3億円等）などです。

農産物の加工では、ひまわり油や竹炭、ヤーコン製品、かりん製品、いちじく製品などがあり、高付加価値の農産物加工の推進が課題です。

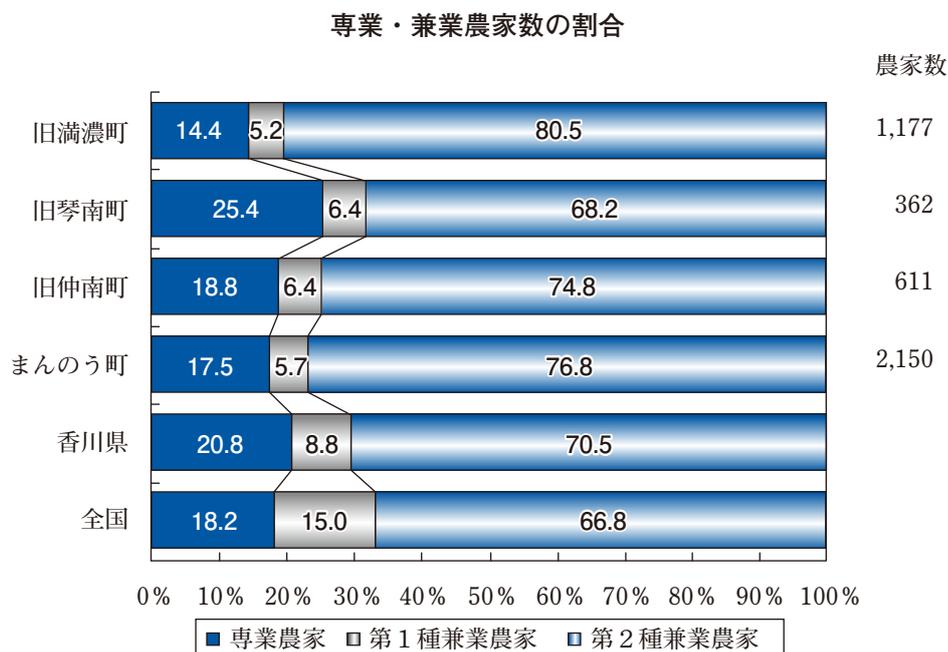
平成16年の主な農産物の農業産出額（旧町別）

単位：億円

農産物	合計	旧満濃町	旧琴南町	旧仲南町
米	10.3	5.9	1.7	2.7
野菜	9.7	4.6	2.5	2.6
果実・花き	3.6	1.8	0.1	1.7
畜産	18.3	7.8	1.9	8.6

資料：農林水産統計

専業・兼業農家数の割合をみると、平成17年の専業農家数の割合は17.5%、第1種兼業農家数の割合は5.7%、第2種兼業農家数の割合は76.8%です。県・国と比較すると、専業農家、第1種兼業農家の割合が低く、第2種兼業農家の割合が高くなっています。

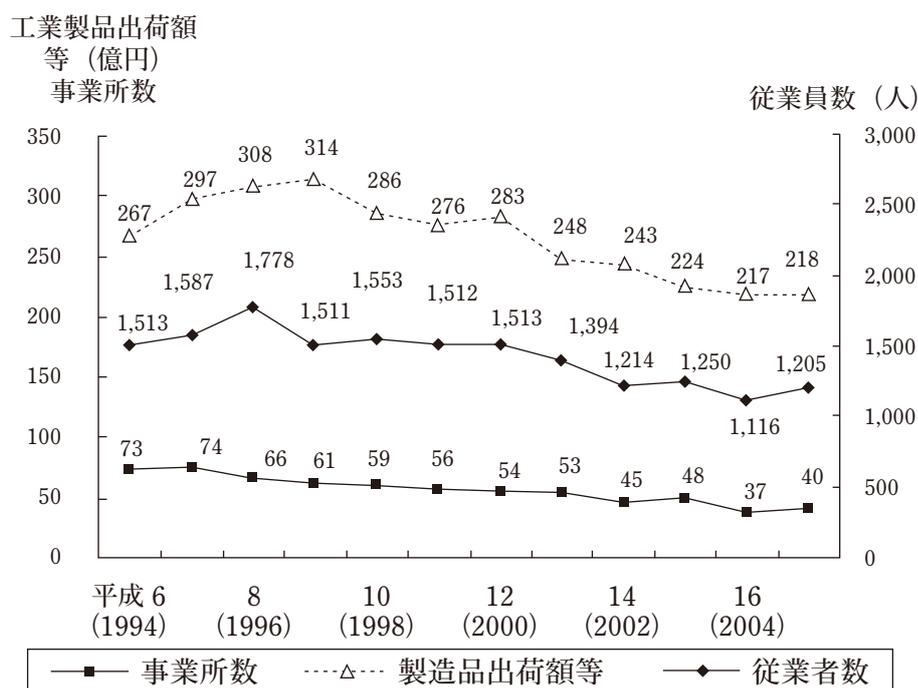


資料：2005年農林業センサス

(2) 工業

平成17年の本町の事業所数(4人以上)は40、従業者数は1,205人、製造品出荷額等は218億円です。平成5年からの推移をみると、事業所数は減少が続いていましたが、平成17年にはやや増加しています。従業者数については平成8年、出荷額等については平成9年まで増加しましたが、それ以降は減少傾向が続き、平成17年にはやや増加しています。

事業所数・従業者数と出荷額の推移



資料：工業統計調査(4人以上の事業所の集計)

事業所数・従業者数・工業製品出荷額等の推移（旧町別）

単位：事業所数、人、百万円

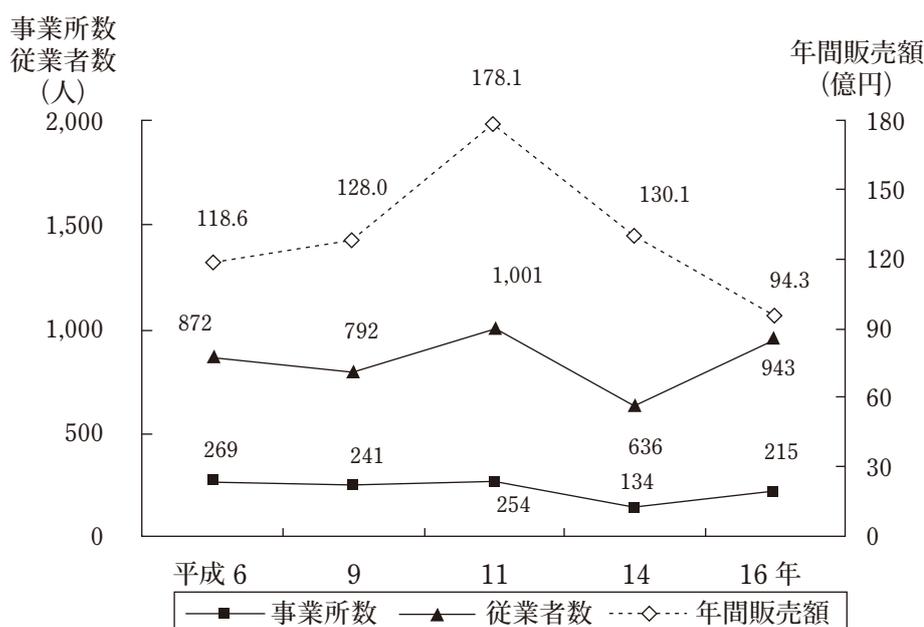
	区分	事業所数	従業者数	製造品出荷額等
平成13年 (2001)	合計	53	1,394	24,812
	旧満濃町	36	999	16,954
	旧琴南町	8	76	384
	旧仲南町	9	319	7,474
14年 (2002)	合計	45	1,214	24,316
	旧満濃町	34	982	15,663
	旧琴南町	4	49	291
	旧仲南町	7	183	8,362
15年 (2003)	合計	48	1,250	22,424
	旧満濃町	36	958	15,823
	旧琴南町	6	47	386
	旧仲南町	6	245	6,215
16年 (2004)	合計	37	1,116	21,727
	旧満濃町	28	903	14,935
	旧琴南町	4	38	260
	旧仲南町	5	175	6,532
17年 (2005)	合計	40	1,205	21,765
	旧満濃町	30	984	15,154
	旧琴南町	4	35	261
	旧仲南町	6	186	6,350

資料：工業統計調査

(3) 商業

本町の平成16年の事業所数は215、従業者数は943人、年間販売額は94.3億円です。事業所数、従業者数は減少傾向が続いていましたが、平成16年にかけてやや増加しています。年間販売額は平成11年をピークに減少が続いています。

事業所数、従業者数、年間販売額の推移



資料：商業統計調査

小売・卸売別事業所数、従業者数、年間販売額の推移

単位：人、百万円

	小売業			卸売業		
	事業所数	従業者数	年間販売額	事業所数	従業者数	年間販売額
平成6年 (1994)	240	744	8,838	29	128	3,018
平成9年 (1997)	211	650	9,746	30	142	3,058
平成11年 (1999)	222	843	14,040	32	158	3,770
平成14年 (2002)	99	424	7,414	35	212	5,597
平成16年 (2004)	178	736	6,117	37	207	3,315

資料：商業統計調査

(4) 観光

観光は、満濃池を中心として国営讃岐まんのう公園、県立満濃池森林公園、かりん亭などの観光施設の整備が進むとともに、道の駅空の夢もみの木パーク、エピアみかどなど、物産施設も整備されてきました。また、県内一を誇る讃岐うどん店（セルフ店・製麺所店）の立地が見られ、有名店には全国から観光客が訪れています。

年間300万人が訪れる金刀比羅宮に隣接しているものの、観光地としてアピールできておらず、「讃岐うどんの町」「モザイクガラス玉（トンボ玉）」の町のPRや、カリンやひまわりなどを使った特産品開発などが課題です。

町内の宿泊施設は、温泉宿2、ロッジ1、民宿1、キャンプ場2です。

平成18年度に本町を訪れた観光客数は約133万人で、日帰り客が129.3万人、宿泊客が3.7万人です。

主な観光資源一覧

領域	全国レベル	四国レベル	県レベル
1. 自然	満濃池	国営讃岐まんのう公園 三霞洞溪谷	県立満濃池森林公園 大滝大川県立自然公園
2. 特産品・飲食店・物産館	讃岐うどん店	かりん、ひまわり	筍、いじちく、苺、菊 道の駅空の夢もみの木パーク、エピアみかど
3. 観光・スポーツ施設			塩入温泉、かりん温泉、美霞洞温泉、ホタル見公園、ことなみ土器どきひろば、健康ふれあいの里、大川山キャンプ場
4. イベント・祭り	綾子踊	ひまわり祭り	
5. 歴史・文化	モザイクガラス玉	二宮忠八飛行館	大川念仏踊り

●情報発信の状況

インターネットで検索してみると、「まんのう町×讃岐うどん」が15,100件で一番多くなっています。

近くの観光資源としては、「金刀比羅宮」143,000件がありますが、「まんのう町×金刀比羅宮」は291件と少なく、「金刀比羅宮に参って、帰りにまんのう町によった」というような個人ホームページが少ないと考えられます。

「うどん店A」は29,200件あり、個人ホームページでよく取り上げられていますが、「まんのう町×うどん店A」は487件で、町のイメージアップには繋がっていません。「讃岐うどんの町・まんのう町」のイメージアップが課題です。ちなみに、「旭川市×ラーメン村」18,600件、「広島市×お好み村」21,200件です。

「まんのう町×かりん」は567、「まんのう町×ひまわり」424で、「諏訪市×かりん」5,310、「北竜町×ひまわり」28,500などと較べて、特産品も十分にアピールできていません。

個人ホームページで紹介したくなる、という「ネットコミュニケーション（ネットコミ）」が広がる取り組みが課題です。

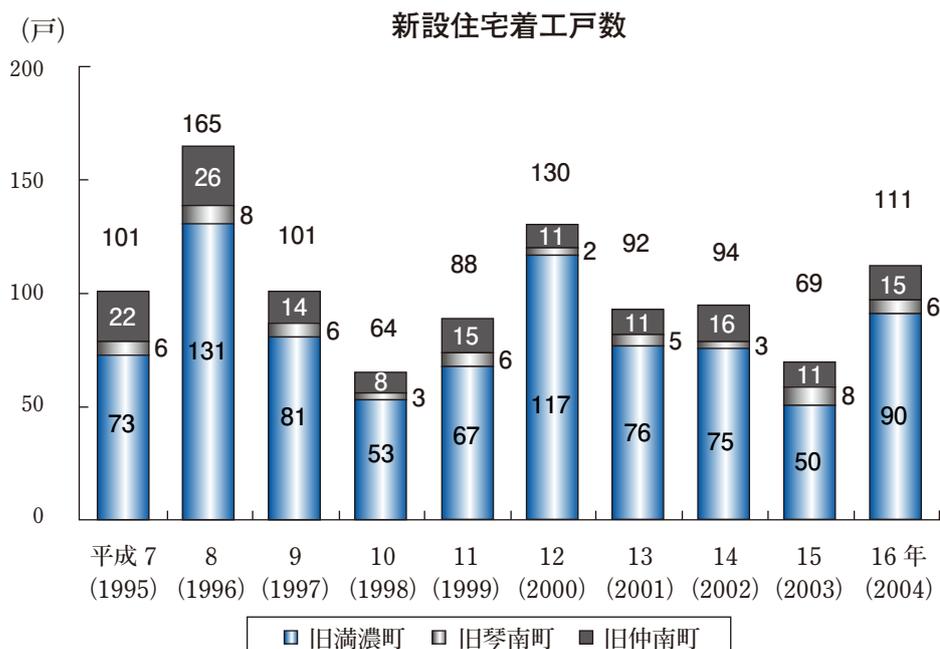
まんのう町ホームページ検索 (YAHOO 070310)

キーワード	ヒット数	参考
まんのう町	78,100	
まんのう町	15,100	高松市×讃岐うどん 331,000 丸亀市×讃岐うどん 85,700 琴平町×讃岐うどん 20,400
まんのう町	487	うどん店A 29,200
まんのう町	295	" B 16,900
まんのう町	180	" C 12,900
まんのう町	542	満濃池 43,600
まんのう町	407	国営讃岐まんのう公園 31,600
まんのう町	567	諏訪市×かりん 5,310
まんのう町	424	北竜町×ひまわり 28,500
まんのう町	291	金刀比羅宮 143,000
まんのう町	268	塩入温泉 644
まんのう町	157	美霞洞温泉 632
まんのう町	156	かりん温泉 539
まんのう町	149	エピアみかど 553
まんのう町	133	もみの木パーク 633
まんのう町	76	二宮忠八 12,500
まんのう町	14	トンボ玉 225,000

注：おおよその目安として、10万を越えると、誰もが知っている著名な全国区となる。1万を越えると、全国区となる。

●住宅着工

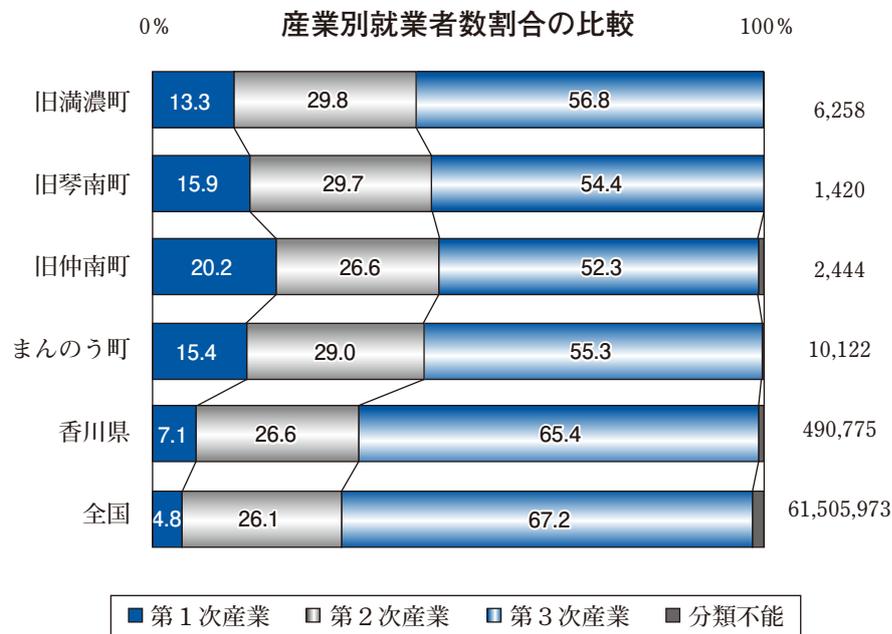
本町の平成16年の新設住宅着工戸数は111戸です。平成7年以降の推移をみると、64～165戸で推移しており、旧満濃町が大部分を占めています。



●就業の動向

(1) 産業分野別の就業割合

平成17年の就業人口は10,122人で、第1次産業15.4%、第2次産業29.0%、第3次産業55.3%です。第1次産業の割合が県平均や国平均よりも大幅に高く、第3次産業の割合が低くなっています。第2次産業は県平均や国平均とほぼ同じ割合です。



資料：平成17年国勢調査

(2) 通勤・通学の動向

平成17年の本町に在住する就業者・通学者11,009人のうち、町内で従業・通学する人は5,125人(46.6%)で、他市町で従業・通学する人は5,884人(53.4%)です。他市町の従業・通学先で多いのは丸亀市1,499人、琴平町891人、高松市786人、善通寺市745人などです。また、本町で従業・通学する7,784人のうち、町内に在住している人は5,125人(65.8%)、他市町に在住している人は2,659人(34.2%)です。他市町からの従業・通学元としては、丸亀市810人、善通寺市416人、坂出市87人、高松市85人などが多くなっています。

平成17年の主な通勤・通学先

居住地 → 通勤・通学先		従業・就学地 ← 通勤・通学元	
居住地	通勤・通学先	従業・就学地	通勤・通学元
まんのう町 11,009人	①居住地 5,125人 (46.6%) ②丸亀市 1,499人 ③琴平町 891人 ④高松市 786人 ⑤善通寺市 745人	まんのう町 7,784人	①居住地 5,125人 (65.8%) ②丸亀市 810人 ③善通寺市 416人 ④坂出市 87人 ⑤高松市 85人

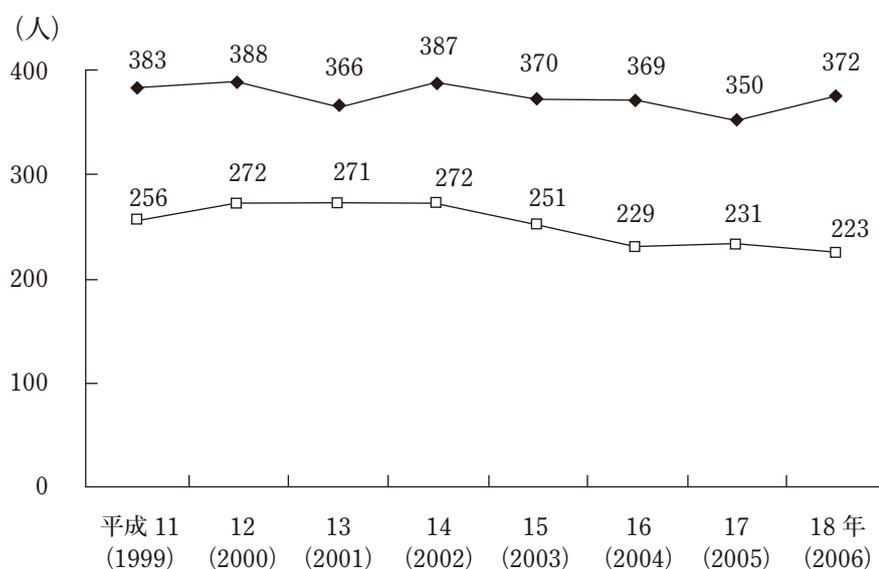
資料：平成17年国勢調査

次世代育成

●保育園・幼稚園

平成18年の本町の保育園数は5園、園児数は372人です。幼稚園数は6園、園児数は223人です。近年の推移を見ると、保育園数は平成15年に旧琴南町で1か所減少しており、幼稚園数は平成18年に1か所減少しています。保育園児数は、350～380人の間で横ばいですが、幼稚園児数は減少傾向が続いています。

保育園児数と幼稚園児数の推移



保育園数と園児数

	合 計		旧満濃町		旧琴南町		旧仲南町	
	園児数	園数	園児数	園数	園児数	園数	園児数	園数
平成12年	388	6	249	3	83	2	56	1
平成13年	366	6	236	3	77	2	53	1
平成14年	387	6	256	3	72	2	59	1
平成15年	370	5	247	3	54	1	69	1
平成16年	369	5	258	3	47	1	64	1
平成17年	350	5	233	3	47	1	70	1
平成18年	372	5	—	—	—	—	—	—

資料：町調べ

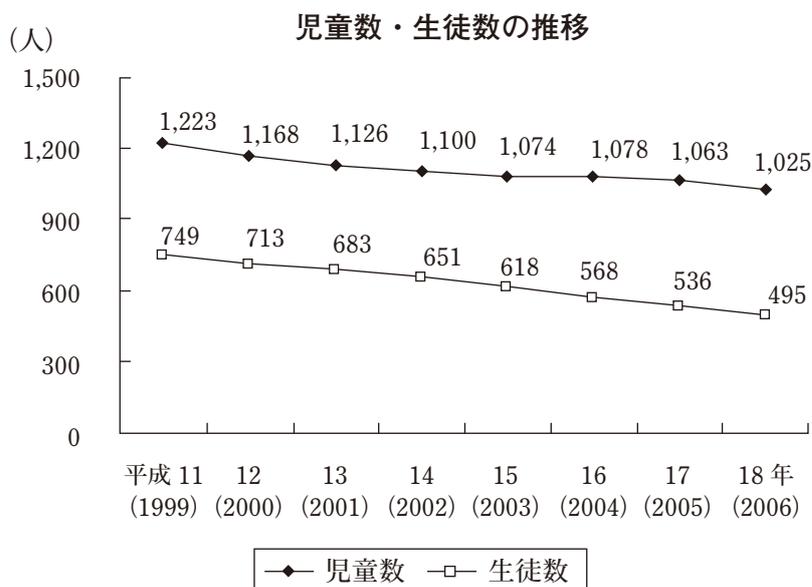
幼稚園数と園児数

	合 計		旧満濃町		旧琴南町		旧仲南町	
	園児数	園数	園児数	園数	園児数	園数	園児数	園数
平成12年	272	7	202	4	—	—	70	3
平成13年	271	7	198	4	—	—	73	3
平成14年	272	7	200	4	—	—	72	3
平成15年	251	7	189	4	—	—	62	3
平成16年	229	7	172	4	—	—	57	3
平成17年	231	7	181	4	—	—	50	3
平成18年	223	6	—	—	—	—	—	—

資料：学校基本調査

●小・中学校

平成18年5月1日現在、本町には小学校が6校あり、児童数は1,025人です。中学校は2校あり、生徒数は495人です。ここ10年間の推移を見ると児童・生徒数ともに減少の一途で、学校数も小学校は平成16年から平成18年にかけて3校減り、中学校は平成17年から平成18年にかけて1校減少しています。



小学校数と児童数

	合 計		旧満濃町		旧琴南町		旧仲南町	
	児童数	校数	児童数	校数	児童数	校数	児童数	校数
平成12年	1,168	9	707	4	169	2	292	3
平成13年	1,126	9	707	4	161	2	258	3
平成14年	1,100	9	724	4	138	2	238	3
平成15年	1,074	9	710	4	131	2	233	3
平成16年	1,078	9	723	4	124	2	231	3
平成17年	1,063	8	715	4	119	1	229	3
平成18年	1,025	6	—	—	—	—	—	—

資料：学校基本調査

中学校数と生徒数

	合 計		旧満濃町		旧琴南町		旧仲南町	
	生徒数	校数	生徒数	校数	生徒数	校数	生徒数	校数
平成12年	713	3	426	1	108	1	179	1
平成13年	683	3	414	1	90	1	179	1
平成14年	651	3	390	1	93	1	168	1
平成15年	618	3	362	1	95	1	161	1
平成16年	568	3	349	1	89	1	130	1
平成17年	536	3	349	1	80	1	107	1
平成18年	495	2	—	—	—	—	—	—

資料：学校基本調査

行財政運営

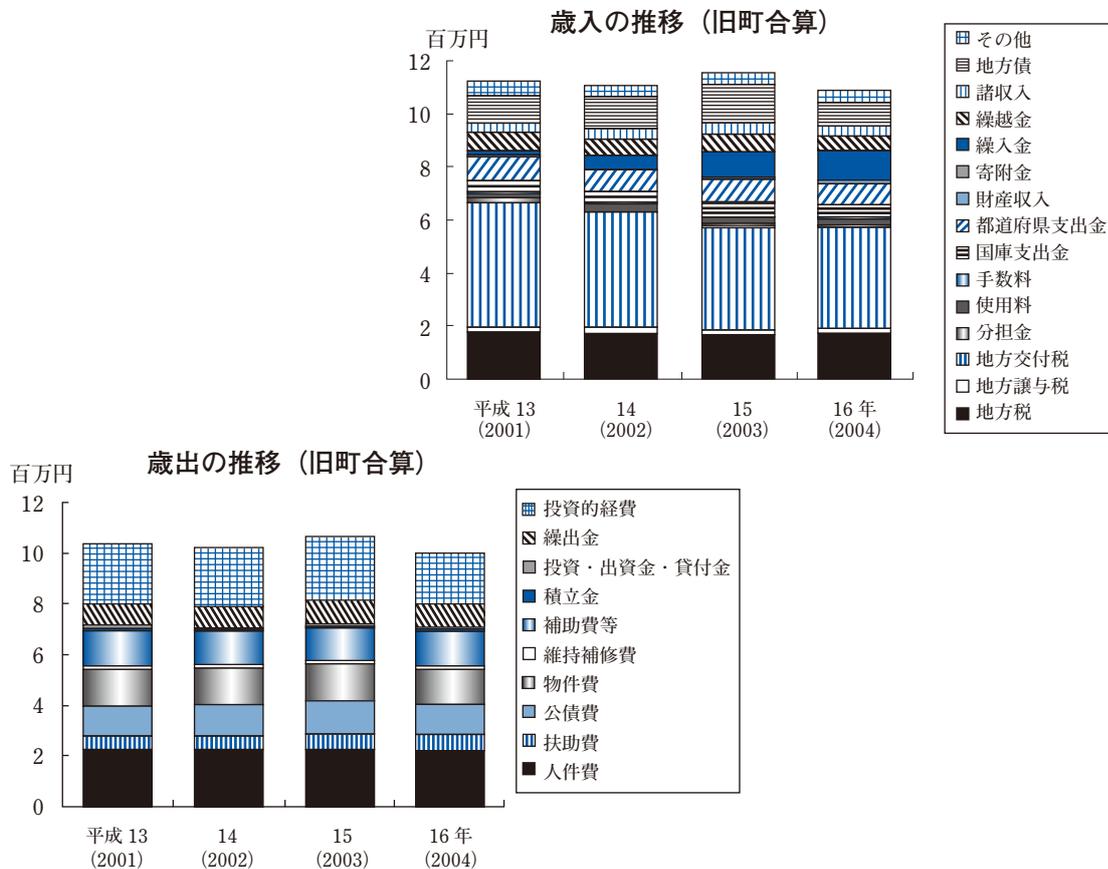
旧町の平成16年度の歳入と歳出を合算すると、歳入は108.5億円、歳出は99.6億円です。

地方交付税(旧町合算額)は、平成13年の47.2億円から平成16年には38.3億円へと約10億円減少しており、県支出金(旧町合算額)についても、平成13年の9.1億円から平成16年には7.7億円へと約1億円減少しています。

平成16年度の旧町ごとの財政指標をみると、財政力指数³³は旧満濃町0.41、旧琴南町0.21、旧仲南町は0.31、経常収支比率³⁴は旧満濃町87.1%、旧琴南町92.2%、旧仲南町89.8%、公債費比率³⁵は旧満濃町11.3%、旧琴南町18.5%、旧仲南町15.3%です。また、本町の現在地方債残高は143.5億円です(平成18年9月30日現在)。

今後も、地方交付税や国・県の支出金の削減などに加えて、人口の減少傾向と高齢化の進行、地域産業の不振などが続くとすると、さらに厳しい財政運営が予想されます。

自主財源の確保のための戦略的な取り組みを行うとともに、徹底的な行財政改革により、健全な財政運営を行うことが求められます。



33 財政力指数：基準財政収入額（標準的に収入できると考えられる税収入等）を基準財政需要額（平均的な行政水準を維持するのに必要な一般財源）で除して得た数値の過去3年間の平均値。この指数が大きいほど財政力が強いとされています。

34 経常収支比率：一般財源に占める人件費、扶助費、公債費などの義務的な経費や準義務的な経費の占める割合で、この比率が80%を越えると財政が硬直化しているといわれ、財政運営が厳しくなります。

35 公債費比率：一般財源に占める公債費の割合で、一般に15%が警戒ライン、20%が危険ラインとされています。

まんのう町総合計画策定経過

① 住民アンケートの実施

時 期 平成19年3月29日～4月16日
調査方法 無作為抽出・郵送による配布及び回収
対 象 者 1,500人
回 答 率 44.9% (回答票数 674票)

② まちづくり委員会の開催

委員 数 44名 (公募 3名 団体推薦 23名 役場職員 (課長補佐級) 18名)

開催状況	開催日	内 容
	5月10日	委嘱式及びワークショップ「こんな町にしたい!まんのう町」
	5月29日	ワークショップの結果及び住民アンケートの結果について
	6月11日	戦略プロジェクトの絞り込みについて
	7月 3日	戦略プロジェクトの内容の絞り込みについて
	7月19日	各班の発表及び他班への提言
	7月30日	提言書作成
	8月 9日	提言書の確認
	9月 3日	提言書提出

③ 策定委員会の開催

委員 数 20名

開催状況	開催日	内 容
	5月29日	計画策定の趣旨及び概要説明
	10月10日	計画案の検討
	10月10日 } 10月12日	ヒアリング

④ 審議会の開催

委員 数 20名

開催状況	開催日	内 容
	11月13日	委嘱式及び審議
	12月11日	審議
	1月11日	審議
	1月31日	審議
	2月19日	答申

⑤ 「まんのう町総合計画(案)」に対するパブリックコメント募集

募集時期 平成20年1月10日～1月30日
意見件数 29件

⑥ まんのう町議会における基本構想議決

議 決 日 平成20年3月26日

まんのう町総合計画(案)について(諮問)

19ま企発第145号

平成19年11月13日

まんのう町総合計画審議会長 様

まんのう町長 栗田 隆 義

まんのう町総合計画(案)について(諮問)

まんのう町総合計画審議会条例(平成18年まんのう町条例第31号)第2条の規定に基づき、このことについて貴審議会の意見を求めます。

資料編

まんのう町総合計画策定経過
まんのう町総合計画(案)について(諮問)

まんのう町総合計画について(答申)

平成20年2月19日

まんのう町長 栗田隆義 殿

まんのう町総合計画審議会
会長 山内 光

まんのう町総合計画について (答申)

平成19年11月13日付け19ま企発第145号で諮問のあったこのことについて、次のとおり答申します。

記

まんのう町では、平成18年3月の3町合併以来、新町建設計画を基に「誰もが住みよい・住み続けたいまち」を目指してまちづくりが進められています。地域住民のきずなを深める自治会組織の確立や高度情報化社会の到来に対応した情報基盤整備など安心して生活するための社会基盤づくりが進みつつあります。

しかしながら、更なる少子高齢化や地方分権の拡大が加速する中、地方財政は一層厳しいものとなり、地方自治体のかじ取りもより一層難しくなると予測されます。可能な限りの行財政改革と、まんのう町の特性を最大限にいかした協働のまちづくりを推進し、住民一人一人が主体的に住み続けられる地域社会の実現に向けた努力が求められています。

本審議会では、それらを十分踏まえ、本計画について慎重かつ活発に審議を重ねた結果、新たに誕生したまんのう町の目指すべき将来像及び重点施策並びにそれらの方向性について、その内容はおおむね適切であると認めます。

なお、本審議会で出された多くの意見や提言を別紙のとおり取りまとめましたので、今後の実施計画に十分いかされるよう強く要望します。

総合計画の実現に向けて

- (1) 総合計画の実現に向けて、町長が先頭に立ち、職員がやる気を持ってプロジェクトチームを作るなど、シンボルプロジェクトの取り組みを推進されたい。
- (2) 目標となる数値の根拠を明らかにするとともに、計画に対する評価の仕組みを確立し、数値目標を基に毎年評価を行いながら実現を図られたい。
- (3) 10年後を予想するのは難しいので、総合計画は総花的にならざるを得ない。具体的な実施計画の段階では各課で十分に協議をして、適切な計画推進に取り組むよう努められたい。
- (4) 10年先を見越して、まんのう町らしい特色のある、個性的なまちづくりを進められたい。
- (5) 今後、自己財源率が上がるよう、企業誘致や地場産業の振興、若者の定住化などを重点的に進められたい。
- (6) 若者の定住化を促進するため、職場の確保を図るなど、結婚や子育てがしやすいまちづくりに努められたい。
- (7) 計画推進に当たっては、広く町民に計画を周知するとともに、理解と協力を求められたい。

1-1 自然が輝くまちづくり（生活・自然環境）に向けて

近年、満濃池が満水にならない事態が起きるなど、水不足は深刻になると予想される。森林や水田、ため池など水源の保全・確保などを進められたい。

1-2 心豊かな人材を育てるまちづくり（教育・学習）に向けて

- (1) 子どもたちが貴重な体験や経験を積むために、空き校舎を使っての通学合宿事業などに積極的に取り組まれたい。
- (2) 琴南中学校の存続を図るため里親を募集するなどのプラス志向の考えを持ち、琴南地区だけの問題とせず、みんなで考えていただきたい。
- (3) 地産地消に向けて、給食には極力地元の農産物を使うよう努められたい。

1-3 すべての人が輝くまちづくり（交流・文化）に向けて

男女共同参画については従来から進んでいないので、是非女性の管理職登用の実現に努められたい。

2-1 誰もが安心して暮らせるまちづくり（健康・福祉）に向けて

- (1) 介護予防について、徹底的に取り組まないと財政が立ち行かなくなるので、早急に町民を巻き込んだ対策を考えられたい。
- (2) 子育て中の親の負担を軽減するために、「直接支払い制度」の導入が急務と考える。早急に改善されたい。

- (3) 高齢者が生きがいを持って生活するために、生産者としての立場に立てるような対策を考えられたい。
- (4) 都会に出て両親を田舎に残している人のために、情報基盤を利用し、高齢者を見守る仕組みなどを考えられたい。

2-2 誰もが安全・快適に住めるまちづくり（生活基盤）に向けて

- (1) 高松市・坂出市・丸亀市までの通勤時間が短くなれば定住者が増えると予想されるので、交通網の整備について、関係諸機関への働きかけをされたい。
- (2) 道路や水路の整備状況が悪いので、改善されたい。
- (3) 情報通信網を活用した住民サービスを検討されたい。特に、山間部の高齢者へのサービスについては早急に対処されたい。

3-1 地域経済の活力を高めるまちづくり（産業・雇用）に向けて

- (1) まんのう町は農地が多いので、今後の農業の発展のために何を作るかの研究に資金を投じられたい。
- (2) 農業従事者の平均年齢は70歳を越え、10年後には荒廃地が増加するおそれがある。担い手の育成や貸借制度の見直しなど早急に取り組まれたい。
- (3) 特産物を作っても産直市でしばらく売れるが、すぐ売れなくなる傾向があるので、米や野菜類など毎日消費するものを推進されたい。
- (4) 小規模な商店は減少し、後継者が育っていない。今後、新たなサービスを生み出すための支援に努められたい。
- (5) 町民や法人、役場が情報通信網を上手に使い、企業の振興や企業誘致に取り組まれたい。

3-2 健全で住民がつくるまちづくり（住民自治・協働）に向けて

- (1) 行政では取り組みにくいことについても、NPOなら行政と連携して活発な活動が期待できるかもしれないので、NPO設立を支援されたい。
- (2) 人間関係を作る社会的土壌が崩壊しつつあり、仲南地区で毎年行っているバレーボール大会などに若者が集まらなくなった。若者を中心としたまちづくりをするためには、若者の交流機会を増やすなどの環境を整える対策に取り組まれたい。

まんのう町総合計画審議会委員名簿

	所 属	役 職	氏 名	備 考
1	まんのう町議会	議長	山西 毅	議会の議員
2	まんのう町議会	副議長	未武 弘道	議会の議員
3	まんのう町議会	総務常任委員長	三好 勝利	議会の議員
4	まんのう町議会	教育民生常任委員長	藤田 昌大	議会の議員
5	まんのう町議会	建設経済常任委員長	高尾 幸男	議会の議員
6	まんのう町教育委員会	教育委員長	三原 一夫	教育委員会の委員
7	まんのう町農業委員会	会長	曾我部良則	農業委員会の委員
8	まんのう町社会福祉協議会	事務局長	竹林 昌秀	公共的団体の役員又は職員
9	香川県農業協同組合	協栄支店長	三好 順一	公共的団体の役員又は職員
10	まんのう町商工会	会長	平田 正数	公共的団体の役員又は職員
11	まんのう町内森林組合 代表	香川西部森林組合 組合長	曾我部 強 H19.11.13～ H19.12.10	公共的団体の役員又は職員
			大塚 弘道 H19.12.11～	
12	まんのう町内土地改良区 代表	仲南町土地改良区 理事長	千葉 宗和	公共的団体の役員又は職員
13	まんのう町連合自治会	琴南地区会長	亀井 薩男	公共的団体の役員又は職員
14	まんのう町連合自治会	満濃地区会長	山内 光	公共的団体の役員又は職員
15	まんのう町連合自治会	仲南地区会長	田岡 英則	公共的団体の役員又は職員
16	まんのう町老人クラブ連合会	会長	青野 保	学識経験者
17	まんのう町婦人連絡協議会	会長	朝倉 安子	学識経験者
18	まんのう町青年会	会長	高嶋 徹也	学識経験者
19	まんのう町PTA連絡協議会	会長	兼若 順二	学識経験者
20	まんのう町体育協会	会長	黒木 輝美	学識経験者

まんのう町総合計画策定委員会委員名簿

	役 職	氏 名	所 属 等
1	委 員 長	佐野 利昭	副町長
2	副委員長	尾鼻 勝吉	教育長
3	委 員	久留嶋一之	議会事務局長
4	委 員	栗田 昭彦	総務課長
5	委 員	齋部 正典	企画政策課長
6	委 員	大西 徹野	商工観光課長
7	委 員	三好 定	税務課長
8	委 員	三宅 茂	住民課長
9	委 員	宮下 一行	環境保全課長
10	委 員	寶智 俊史	福祉保健課長
11	委 員	細川 憲志	健康増進課長
12	委 員	吉原 孝一	農林課長
13	委 員	小野 隆	建設課長
14	委 員	久保田正章	土地改良課長
15	委 員	黒川永二郎	会計管理者
16	委 員	加見 重照	学校教育課長
17	委 員	長田 徹	社会教育課長
18	委 員	米田 能久	琴南支所長
19	委 員	岡澤 勉	仲南支所長
20	委 員	宮地 隆	水道課長

まんのう町まちづくり委員名簿

番号	氏名	所属	班	備考
1	和泉 数彦	公募	1-2	教育・文化
2	深谷 博長	公募	1-3	産業・観光
3	森 浩一	公募	2-2	生活基盤整備
4	兼若香寿美	まんのう町子ども会育成連絡協議会	3-2	交流・企画
5	森川 睦美	仲南東保育所母親クラブ	3-2	交流・企画
6	大林 豊文	まんのう町民生委員児童委員協議会	2-1	健康・福祉
7	和泉ナヲエ	まんのう町母子愛育連絡協議会	2-1	健康・福祉
8	長谷川公一	まんのう町商工会青年部	2-1	健康・福祉
9	宮内 輝昭	J A 香川県 協栄青壮年部	1-1	住民参加・協働
10	白川 智彦	讃岐まんのう太鼓保存会	1-2	教育・文化
11	黒木 輝美	まんのう町体育協会	1-2	教育・文化
12	高嶋 徹也	まんのう町青年会	2-2	生活基盤整備
13	鈴木 信男	まんのう町文化財保護協会	1-2	教育・文化
14	古田 昭義	まんのう町環境美化推進協議会	1-1	住民参加・協働
15	高嶋 弘	まんのう池コイネット	3-1	自然環境・水環境
16	出口 俊和	満濃池土地改良区	3-1	自然環境・水環境
17	小山 悦寛	仲南町森林組合	1-3	産業・観光
18	竹林 昌秀	まんのう町社会福祉協議会	2-1	健康・福祉
19	地藤 照子	まんのう町交通安全母の会連合会	1-1	住民参加・協働
20	近石 忠	香川県身体障害者協会 仲南分会	1-1	住民参加・協働
21	鈴木 晤夫	まんのう町消防団	1-3	産業・観光
22	宝智 久子	満濃地区連合自治会	1-2	教育・文化
23	小亀 裕子	まんのう町生活改善グループ連絡協議会	1-1	住民参加・協働
24	大西 千秋	まんのう町商工会	1-3	産業・観光
25	好井 繁行	J A 香川県 協栄支店	2-1	健康・福祉
26	吉田 勤	まんのう町農業経営者協議会	1-3	産業・観光
27	香川 雅孝	総務課	3-2	交流・企画
28	山下 健司	企画政策課	1-2	教育・文化
29	大西美千代	商工観光課	1-3	産業・観光
30	多田 浩章	税務課	3-2	交流・企画
31	國広 美紀	住民課	3-1	自然環境・水環境
32	森末 史博	環境保全課	3-2	交流・企画
33	高尾 和代	福祉保険課	2-1	健康・福祉
34	佐喜 正司	健康増進課	2-2	生活基盤整備
35	見間 照史	農林課	1-3	産業・観光
36	常包 英希	建設課	3-1	自然環境・水環境
37	岸本 広宣	土地改良課	2-2	生活基盤整備
38	東原 浩史	琴南支所	1-1	住民参加・協働
39	松下 信重	仲南支所	2-2	生活基盤整備
40	川原 恵美	会計室	3-2	交流・企画
41	池下 尚治	水道課	2-1	健康・福祉
42	藤岡 弘美	議会事務局	3-1	自然環境・水環境
43	鈴木 正俊	学校教育課	1-2	教育・文化
44	田岡 一道	社会教育課	2-2	生活基盤整備

まんのう町総合計画

元気まんまん まんのう町

～改革と協働、輝きのまち～

平成20年3月

発行 香川県まんのう町

〒766-0022 香川県仲多度郡まんのう町吉野下430

TEL : 0877-73-0106 FAX : 0877-73-0112

<http://www.town.manno.lg.jp/>

編集 まんのう町企画政策課

制作 株式会社 きょうせい
